

教育目標		やさしく かしく すこやかに——命を大切に・人を大切に・物を大切に——						
重点目標		(1) 基本的人権が尊重される教育の推進 (2) 一人ひとりのニーズを把握し、適切な教育支援を行う「特別支援教育」の推進 (3) わかる授業の創造による、生きてはたらく学力の育成 (4) 心ふれあう仲間づくり (5) 基本的な生活習慣を身につけさせる (6) 心を育てる美しい環境づくり (7) 命を守る安全教育の推進 (8) 健やかな体づくり						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成 学校教育	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	①基礎的、基本的な知識・技能を習得させる。 ①思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開する。 ②児童の態様を的確に把握し、個別最適な学習を実施する。 ③家庭と連携し、家庭学習の習慣づけを図る。	・朝学習での反復練習による計算の基礎構築を図る。 ・単元毎のテストで習熟度を把握し、振り返りや次の単元の学習につなげる。 ・授業中や家庭学習で様々な文章を書く機会を設け、自分の考えや思いが伝わる書き方を指導する。 ・1つの授業でグループやペアワークなどを意識的に取り入れ、どの児童も自分の考えなどを一度は話せるようにする。 ・スクールタクトやドリルパークを活用し、児童が自分にあった課題に取り組みめるよう課題を工夫する。	・各単元における計算分野の正答率が90%以上、漢字小テストの正答率が90%以上になる。 ・自分の考えや思いが読み手に伝わる文章を書くことができる。 ・友達と考えを聞き合うことを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ・児童アンケート「先生は教え方をいろいろ工夫している」への肯定的な回答が93%以上になる。 ・学年、学級の実態にあった課題を選択、作成する。	B	各単元における習熟度は国語算数ともに90%前後に到達している。 夏休み休業中に学年単位で学習教室を実施し、基礎の定着を図った。 学年に応じた内容の作文(1行日記やテーマ作文)に定期的に取り組み、書くことにはなれてきたが、語彙の少なさや原稿用紙の使い方などには課題が見られる。 学年毎に「聞く、話す」といった活動をグループなどを用いて授業に取り入れた。 ・ふりかえりを書く際に「誰の意見が気づきにつながったか」を書くことで友達の意見への関心が高まっている。 ・自分のことを話すことや目的意識を持って聞くことは一定数苦手な児童が見られる。 習熟度に合わせた課題の選択、既習事項をすぐ確認できる掲示物、自主的な学習が必要になるテストなどを実施したこと「テストに向けた勉強にとりくむ」「わからないことを見つけて教え合う」「自分で学習ペースを決める」という姿が見られた。 高学年では音読カードに毎日の学習時間を記録できるようにしたが、取り組みや記入方法が統一できておらず、今後も家庭学習への意識付けが必要である。	・来年度も単元テストや小テストで国語算数の基礎が定着しているかを確認し、必要に応じて個別指導や課題の選択を実施する。 ・プリント、スクールタクトなど様々なツールも利用しながら書く力を引き続き伸ばす。またその取り組みを学校全体で共有することで系統立てた指導につなげていく。 ・低学年ではまず「聞く」「自分のことを話す」ことの定着を図り、高学年に向けて「聞いて考える」「見てくらべる」「目的意識を持って聞く」といった「聞く、はなす自分の考えを広げるための活動をどの教科でも取り入れていく。 ・児童の実態に応じて、可能な範囲で宿題の量や内容を調整し、家庭学習に自信を持って取り組めるようにする。 ・低学年では読書記録カード、中学年以上では自主学習やマイシード等を活用し、授業の内容だけでなく興味のある内容や過年度の復習、読書など様々な形で家庭学習に取り組めるよう啓発する。 ・家庭学習時間をただ記録させるだけでなく、定期的にチェックしたり、学習内容を書かせたりする。	
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	①教育のICT化を促進し、効果的な活用方法を探索する。 ③学校からの配布物や保護者、児童のアンケートのデジタル化をすすめる。	・ICT機器や各アプリケーションの具体的な効果的な活用についての研修を実施。 ・学年通信、アンケートなどフォーマットの作成方法を統一し、学校と保護者双方に使いやすい発信方法を検討。	・学校ホームページを週1回以上更新 ・Googleへの登録者が全保護者の95%以上。 ・保護者アンケートの「学校は教育方針や行事、活動などの様子を学校通信やホームページなどを通じて保護者に伝えている」への肯定的な回答が92%以上→79%	A	・ICT教育推進担当と学級担任とが連携し、漏れのないように登録を推進してきた。また、保護者の方々にも必要性を理解いただいて、分からないところは、積極的に学校に問い合わせたいただいた成果である。メールアドレスの変更などにも電話・連絡帳などを通じて対応している。 ・学級担任や教頭が連携し、積極的にホームページの更新を行ってきた。多くの方に評価されており、継続する必要がある。	・現在の取り組みを継続していく必要がある。 ・変化の激しい社会に対応するための「具体的施策」を今後検討する必要がある。	
	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	①道徳教育の充実 ②いじめの未然防止・早期発見 ③不登校の未然防止を図る。 ②③友だちの考えを認め合う学級づくりに取り組む。	・道徳の授業を中心に自分の考えを持ち、書き表すことで自信を持って活動する自尊心を養う。 ・話し合い活動を通して、お互いの意見を聞き合い、認め合おうとする力を養う。 ・部会や職員会議、また学級に関する教員との情報交換を定期的に行い、いじめの未然防止と早期発見に努める。 ・欠席、行き渋り、遅刻傾向のある児童については始業前後に家庭へ連絡を取る。また担任だけでなく、児童支援をはじめとする他の教員と連携して対応する。 ・仲間づくり集会(年3回)を実施し、思いやりの心や自尊感情を高め、認め合える学級づくりを推進する。	・研究アンケート(児童)「授業中、自分の考えを友だちに話したい、友達の考えを聞きたい。」及び「自分にはいいところがある」への肯定的な回答が80%以上になる。 →87% ・児童アンケート「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて学んでいる」への肯定的な回答が90%以上になる。 →93% ・長期欠席者を全体の1%未満及び、いじめを原因とする不登校0にする。 ・児童アンケート「自分にとって居心地のよいクラスだと思う」への肯定的な回答が90%以上になる。 →87%	A	・道徳の明確な答えのない問いに対する仲間の意見に、興味を持って聞き合うことができた。 ・1つの物事に対して、自分とは異なる考えでも共感的に聞き、認め合おうとする雰囲気が出てきた。 ・全体の前で、自分の考えを発表できる児童が学年が上がるにつれて多くなっている。 ・考えを表現する力が乏しく、相手に伝わるように書くことには課題が残る。 ・定期的に関係する学級や学年の情報交換を行い、いじめの未然防止、早期発見、早期改善に努めた。 ・欠席や遅刻の傾向のある児童を把握し担任と児童支援をはじめとする他の教員で連携を図り支援を行った。2月現在30日以上欠席者は全体の0.02%、いじめを原因とする不登校は0人である。 ・仲間づくり集会を3回行い、友だち関係やクラスでの居場所などをテーマに話し合うことで認め合う学級づくりに努めることができた。	・どの授業においても自分の考えを書く活動を取り入れる。 ・書いたことをもとに他の児童の前で話す機会を意図的に設ける。 ・今年度の児童の様子ややってきた支援策などの記録を残し、継続的な児童の支援を行えるようにしていく。 ・朝の時間に連絡のない児童への電話連絡や家庭訪問を行ったことで長期欠席につながる児童を減少することができたので、次年度も連携をとりながら学校全体として諸策を継続する。	
	「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	①自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	・児童の体力、筋力、筋持久力、柔軟性を伸ばすためのせつとれを毎月種目を変えながら実施。また学校HPで発信。 ・委員会活動による全校遊びや、定期的な外遊びの推進 ・児童が安全に体育の授業や休み時間の遊びに通り組めるよう、クラスの備品の配備や、道具、体育器具の点検を実施。	・児童の体力、筋力、柔軟性、筋持久力が向上を目的としたせつとれを各クラスで週1回以上実施する。 ・外遊びを通して社会性や創造性を高める人間関係を養う。 ・定期的な点検を実施することで児童が安全安心に遊ぶことができる環境を整える。	B	・せつとれの取り組みに学年やクラスで差があり、めざす方向性や実施方法が統一できていなかった。 ・生活指導担当と連携し、外遊びの強化期間を実施したことは、外遊びのきっかけづくりとなった。大縄やリレー練習などの種目に学校全体で取り組み、クラスで児童が互いに声を掛け合い、励まし合いながら運動に取り組む場づくりができた。 ・体育担当だけでなく外遊びの際に各職員が危険意識を持って運動場の状態や遊び方を確認していた。運動場などで大きな事故、けがが起きた場合は職員会で共有するとともに、再発防止に向けて各学級で注意喚起を行い、設備の点検を行った。	・内容の見直し及び各学年やクラスの実態を定期的に集約し、無理なく取り組める方法を検討していく。 ・今年度の取り組みを継続しながら、児童の社会性、創造性の向上を目指す。 ・今年度起きた事故を再発させないよう、職員で共有し、運動場での遊びにおけるルールの再確認や設備の点検を実施する。児童や保護者への啓発も定期的に行う。	
教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	①キャリア教育の視点をもった授業づくり。 ②③児童が悩みを相談しやすい環境づくりをする。	・実生活との関連、個々の役割の重要性などを教科学習の内容から関連付ける。 ・キャリアパスポートの記入、授業での活用。 ・SC、SAWとの連携、ケース会議や保護者面談への参加。 ・生活指導部会や職員会議、各研修会における児童の情報共有から問題事案の早期発見・早期解決につなげる。	・キャリアパスポートを記入する際、自身の成長を実感して書くことができる。 ・児童アンケート「学校で勉強することの意味や働くことの大切さについて教えてもらった」への肯定的な回答が90%以上になる。 ・児童アンケート「悩みや不安がある時に、相談しようと思う先生がいる」への肯定的な回答が80%以上になる。	B	キャリアパスポートを記入する際に、前の学年や、1年間を振り返り、自身の成長を感じながら書くことができた。学校で勉強することの意味や働くことの大切さについて、そのことに触れて指導する機会をもう少し多く持つ必要があった。 ・SC、SSWと連携してケース会議や保護者との面談を実施し、各会で職員間での児童の情報共有も行い児童の悩みや不安の解決に努めた。	・学校で勉強することの意味や働くことの大切さについて、行事や各教科の学習を通して、学習することの大切さを考えたり、高学年であれば将来への目標や生き方を考える活動を取り入れるようにする。 ・必要な児童に対して対しては相談できる相手をコーディネートしてきたが全児童に向けて情報提供をしていなかったため、様々な相談先や居場所などを児童が知る手立てを検討する。		
特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	①特別支援教育に対する全職員の共通理解を深め学校全体で取り組む体制を構築する。 ①特別な支援を要する児童の教育的ニーズを把握し、必要に応じた支援体制を整える。	・特別支援教育に関する知識を深めるための研修会を実施。 ・個別の指導計画の作成及び活用。	・職員アンケート「特別支援教育推進委員会は支援を要する児童の共通理解を図り、適切な校内体制を組んでいる」への肯定的な回答が95%以上になる。	A	・職員研修や情報交換を行うことで、特別な支援を要する児童の実態や対応について全職員で共通理解を深めることができ、肯定的な回答が100%に至る結果につながった。個別の指導計画を立てることで、児童1人1人のニーズを把握し、見直しを持って支援を行うことができた。	・引き続き、職員研修や情報交換を行うことにより、全職員が共通理解をもって特別な支援を必要とする児童に関わっていく。		

	<p>教職員の資質向上</p> <p>①研修等の充実</p>	<p>①個々の教師の資質を向上させる。</p>	<p>・学校の課題に応じた校内研修の実施。</p> <p>・自由参加できる研修を随時実施し、授業力やその他学級経営・生活指導に関わるスキルを高める。</p>	<p>・一人一回の公開授業を実施する。</p> <p>・それぞれの教師の授業での工夫や学級経営における取り組みを研修会などで共有し、研鑽につとめる。</p> <p>・児童の実態、学校の課題に対応した研修を実施する。</p>	<p>B</p>	<p>・学年で単元計画や教材研究を行い、より質の高い授業づくりを目指すことができた。</p> <p>・職員全体で授業について考える機会が、研究全体会のみにとどまっていた。</p> <p>・校内研修の時期が学期始め等の繁忙期と重複した。内容については喫緊の課題や学校の実情に対応した内容の研修を実施できた。</p>	<p>・一人一授業は指導案の形式にとらわれず、誰もが授業を簡単に公開できる授業メモのような形式にする。</p> <p>・普段からお互いの授業を気軽に見合うことができる雰囲気をつくる。</p> <p>・可能な限り負担なく開催、参加できる日程を検討しながら、引き続き研修内容の精選に努める。</p>
<p>教育環境の整備・充実</p>	<p>学校を支える組織体制の整備</p> <p>①コミュニティ・スクールの</p>	<p>①コミュニティスクールにおける地域と学校の連携、協働。</p>	<p>・学校運営協議会を実施、運営し学校における課題を地域と共有することで地域に根ざした学校をつくる。</p>	<p>・各行事における学校と地域双方の役割、負担を見直して連携、協働の体制を構築する。</p>	<p>A</p>	<p>・約2ヶ月に一回学校運営協議会を開催し、学校の取り組みについて周知するだけでなく、地域との連携や協働体制について有意義な協議をすすめるができた。</p>	<p>・来年度も継続して協働体制の構築に努める。</p>
	<p>安全・安心な教育環境の充実</p> <p>①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持 ⑤学校における働き方改革の推進</p>	<p>①②③地域や学校施設の実態に応じた安全教育を推進する。</p> <p>④学校施設を安心して使えるための整備点検。</p> <p>⑤教職員の勤務実態を把握した上での働き方改革を推進する。</p>	<p>・火災、防犯、風水害それぞれに対応した訓練を実施。</p> <p>・月一回各教室やその他設備の安全点検を実施する。</p> <p>・自転車教室など発達段階に応じた交通安全教室の実施。</p>	<p>・保護者アンケート「学校は自分の身を守り安全に生活するための方法を指導している」への肯定的な回答が88%以上になる。 →96%</p> <p>・保護者アンケート「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境を整えている」への肯定的な回答が88%以上になる。 →97%</p> <p>・職員の超過勤務時間を年度比95%に削減する。</p>	<p>A</p>	<p>・避難訓練を通して、基本的な身の守り方は知っており、訓練でもできている。しかし、防犯訓練については、教員のみ訓練を実施しているため、児童への指導の検討も必要。</p> <p>・安全点検をすることで、修理等必要な所は見つけることができています。</p> <p>・自転車教室は、3年生で行っている。また、1年生でも、自転車の乗り方の冊子で学習した。日々の生活指導の中で、継続的に指導が必要。</p> <p>・職員の超過勤務時間は前年度比88%削減(4～12月)することができた。また教職員を対象としたアンケートを実施し、業務改善を行っている。</p>	<p>・今後もこれまで通りの避難訓練とともに、防犯訓練については、児童に恐怖感を与えないような訓練や指導を行っていく。</p> <p>・どの学年においても、登下校時における注意点に加え、自転車の乗り方についても学級指導、生活指導の中で行っていく。</p> <p>・今年度は、年度の途中で1回しかアンケートを取っていないため、今後は継続的にアンケートを取り、業務改善につなげたい。また教職員への連絡事項の一本化や週1回、掃除を減らすことで時間の有効化につなげる。来年度、実現させていきたい。</p>

学校関係者評価総括

次年度に向けた重点的な改善点

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った